

鉱山町相川における歴史的建造物の残存状況および外観特性

REMAINING CONDITION AND DESIGN CHARACTERISTIC OF HISTORIC BUILDINGS IN AIKAWA MINING TOWN

大庭裕雅 —— *1 岡崎篤行 —— *2

Hirotohi OHBA —— *1 Atsuyuki OKAZAKI —— *2

キーワード：
佐渡, 相川, 鉱山町, 歴史的建造物, 町屋, 外観特性, 残存状況

Keywords:
Sado, Aikawa, Mining town, Historic buildings, Townhouse, Characteristic of appearance design, Remaining condition

The purpose of this study is to clarify how historic buildings in Aikawa remain and to understand design characteristic of those buildings. This is to make a basic report for expected district designation and establishment of design guidelines. Major results are as follows: 1) 776 historic buildings were counted, 2) Among those we extracted representative 14 types by design characteristic in 440 buildings that we judged to be town houses. So design characteristic of town houses are various, 3) There are many one-storied house type in Kamimachi, and many two-storied house type in Shitamachi.

1. 研究の背景と目的

佐渡市西部に位置する相川は、我が国を代表する金銀山のもと栄えた近世鉱山町であり、歴史的な町並みが今もなお残っている。1997年より世界遺産への機運が高まり始め、2008年には世界遺産暫定リスト入りが決定した。下町や大工～京町の町並み等は、その構成資産として位置づけられている。これまで、相川における代表的な歴史的建造物¹⁾や寺社²⁾、一部の地区における町並みの現況調査^{3),4)}等を行われてきたが、歴史的建造物の網羅的かつ詳細な外観調査は行われておらず、全体像は未だ明らかにされていない。本研究は県内の町場における町並みの地域特性を把握する研究⁵⁾⁻¹⁰⁾の一端を担うものである。また農家を対象とする民家史研究の顕著な進展に対して、町屋に関する研究は遅れているとされる¹¹⁾。そこで本研究では歴史的建造物の悉皆的調査を行う事により、残存状況と町並みの主要な構成要素である町屋系配置(4章(1)にて後述)を中心に外観特性を把握する。これより歴史的町並みを生かした町づくりを行う上で、重点的に保全すべき地区の把握と景観保全のデザインガイドラインとの基礎資料¹²⁾となる事を目的とする。

2. 対象地概要と研究方法

1603(慶長8)年、佐渡代官に任命された大久保長安は翌年、陣屋(後の佐渡奉行所)を築き都市計画を行う事により相川の基盤をつくりあげた。台地上の上町、海岸線沿いの下町等、当時の町の骨格は今もなお見ることができる¹⁾。研究の方法は、文献・既往研究¹⁾により対象地の概要を把握し、古地図¹²⁾・航空写真¹³⁾を基に戦前から存在している町場の把握をして、調査範囲を決定する。現地調査では目視・ヒアリング・佐渡市提供データ等から歴史的建造物²⁾を推定し、それに対して用途・様式・配置形態・外観形態・細部意匠の要素より調査を行う。なお、調査は2008年9月～2009年3月の期間で行った。

3. 歴史的建造物の残存状況

通りから確認された建造物総数2,004棟のうち、776棟を歴史的建造物と推定した³⁾。全体の歴建率⁴⁾は約39%である。これは歴建棟数、歴建率が明らかとされている県内の町場⁵⁾の中で、歴建棟数は旧新潟町に次ぎ、歴建率は上から6番目である。更に建造物総数1,000棟以上の町場と比較すると、最も歴建率の高い村上(545棟,29%)⁵⁾より歴建棟数、歴建率はともに高い⁶⁾。これより、相川は歴建棟数、歴建率については県内最大級といえる。次に建造物数が10棟以上の町に限り⁷⁾町別に歴建率を見ると三町目が83%と最も高い事が分かる。更に二町目～四町目(69%)、上京町～下京町(51%)、小六町～紙屋町(50%)、下戸町～下戸炭屋町(46%)の4地区は歴建率の高い町丁が連続する地区である[図4]。

4. 戸建(伝統和風)の外観特性

(1) 用途・様式・配置形態による歴史的建造物の分類

歴史的建造物776棟を用途、様式、配置形態より分類を行う。まず、用途により「住居・店舗」「宗教建築」「公共的建築」「商業産業建築」に4分類する。住居・店舗に関しては「主屋」「付属屋」に分類し、更に主屋は「戸建」「長屋」に分類する⁸⁾。これらは様式⁹⁾より「伝統和風」「近代和風」「洋風」「和洋折衷」に4分類する。次に接道条件(接道・準接道・半接道・非接道)¹⁰⁾、接隣条件(接隣・片接隣・非接隣)¹¹⁾、玄関位置(前面・側面)より配置形態を決定し、16分類に設定する[表1]。このうち接道・半接道で前面玄関を設けているもの、もしくは一部接道を満たす9種類を町屋系配置とし、相川では屋敷型町屋式cを除く8種類を確認した。これらの分類の結果、戸建(伝統和風・町屋系配置)440棟を抽出した[図5]。また、特徴的なものとして、住居・店舗の洋風建築[図1]、明治期に建設された商業産業建築[図2]、更に公共的建築[図3]等も見られる。

(2) 町屋系配置と屋敷系配置の外観特性

本稿は2009年8月の日本建築学会大会学術講演会(仙台)で発表したもの(既往研究16)に加筆・修正をしたものである。

¹⁾ 新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程
(〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町8050番地)

²⁾ 新潟大学工学部建設学科 准教授・博士(工学)

¹⁾ Graduate Student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.

²⁾ Assoc. Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

戸建(伝統和風)の町屋系配置 440 棟、屋敷系配置 25 棟の外観を構成している要素をそれぞれ、以下に詳述する。

- 1) 外形：町屋系配置は I 型(縦)が一般的であるが、近郷では I 型(横)や L 型が比較的多く見られた。屋敷系配置も I 型(縦)が優勢であるが、全体的に I 型(横)や L 型の占める割合が比較的高い。
- 2) 棟向⁽¹⁵⁾：町屋式・屋敷式では堅屋も見られたが、町屋式に関しては特殊なケースに限られており、全体としては横屋が大半を占める。
- 3) 階数：町屋系配置では平屋建が 38%、2 階建 58%(うち 2 階(中)⁽¹⁶⁾が 28%)であった。一方、屋敷系配置は平屋建が 52%、2 階建が 48%で、そのうち 2 階(低),(中)がそれぞれ 20%を占める。
- 4) 屋根形状：切妻の占める割合が町屋系配置 98%、屋敷系配置 100%と配置形態に関わらず切妻が一般的といえる。
- 5) 壁面仕上げ：新しく張替えられたものを除くと、町屋系配置は堅羽目板(84%)が一般的である。屋敷系配置は堅羽目板と下見板とが同程度確認され、町屋系配置より下見板の占める割合が高い。

(3) 細部意匠

主に北陸・日本海地方で見られる窓付雨戸[図 7]・ガラス雨戸が確認され、特に窓付雨戸が多く見られる。欄干は窓の内外のどちらに位置するかで 2 分類した。参考文献⁽¹⁴⁾では外付欄干のみ見られるが、

現状は内付欄干が大半を占める。風除け⁽¹⁷⁾[図 8]は上町で多く見られた。小木でも建造物の端に見られたが、相川では玄関脇に設けられている点で異なる。更に棧付きの庇や玄関上部の高窓[図 9]も確認され、県内においても特徴的な細部意匠と考えられる。

表 1⁽¹²⁾ 配置形態による分類(※網掛け部は町屋系配置、白色部は屋敷系配置)

	接道	準接道	半接道	非接道
接隣	町屋式 (387)	準町屋式 a (20)	準町屋式 b (11)	準屋敷式 (12)
片接隣	屋敷型町屋式 a (10) 町屋型屋敷式 a (2)	屋敷型町屋式 c (3) 町屋型屋敷式 c (0)	屋敷型町屋式 e (6)	屋敷式 a (7)
非接隣	屋敷型町屋式 b (1) 町屋型屋敷式 b (1)	屋敷型町屋式 d (0) 町屋型屋敷式 d (0)	屋敷型町屋式 f (2)	屋敷式 b (3)

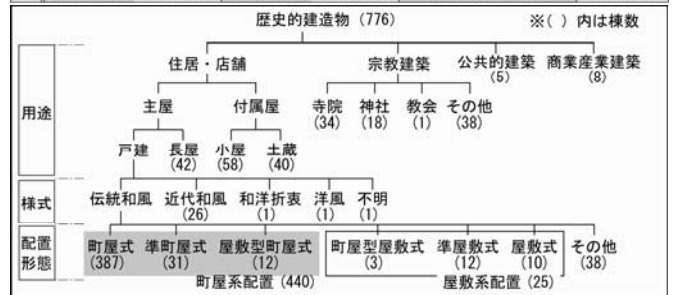


図 5^{(13), (14)} 歴史的建造物における用途/様式/配置形態による分類



図 1 戸建(洋風) 図 2 商業産業建築 図 3 公共的建築

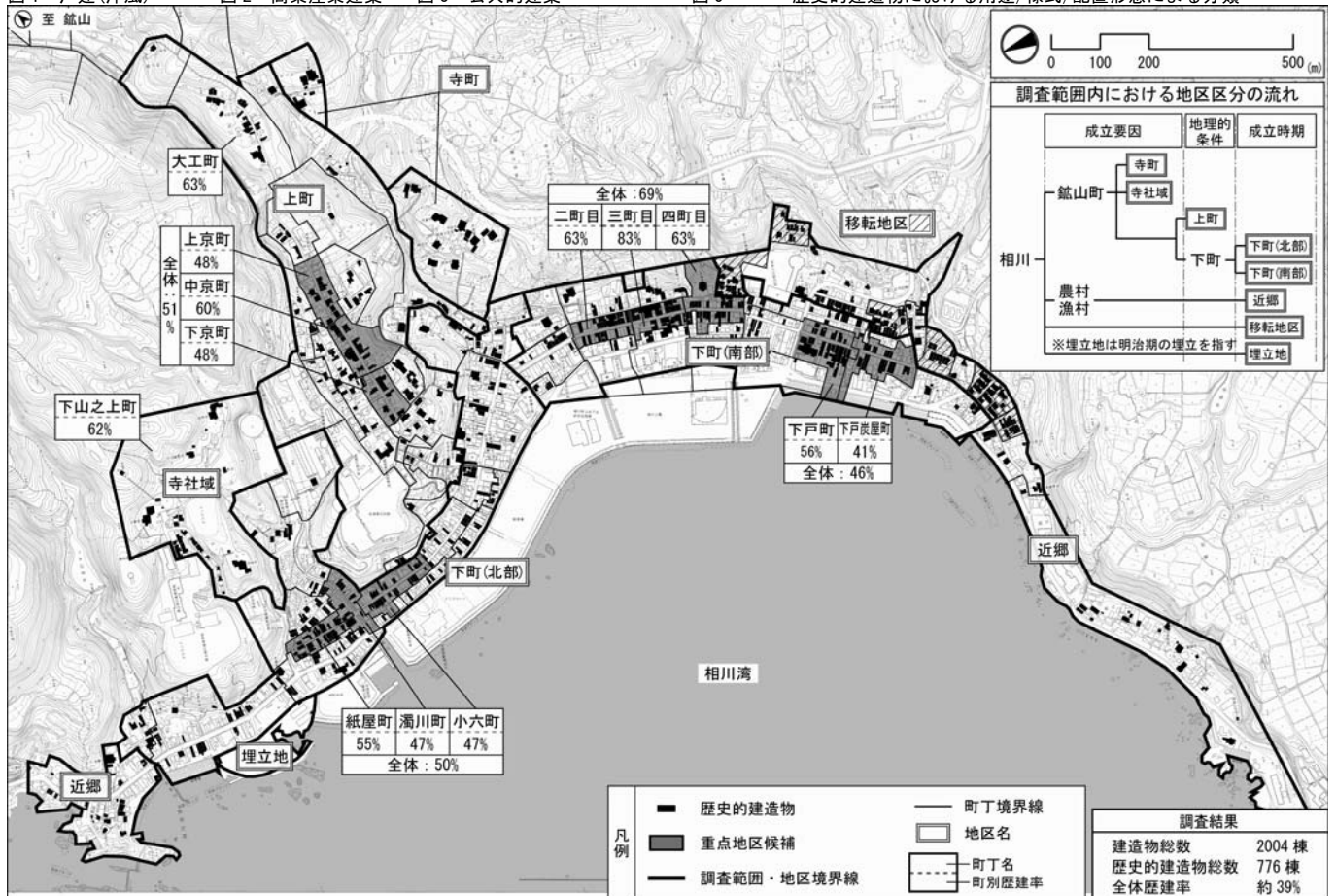


図 4 歴史的建造物の残存状況と町並み整備における重点地区の候補の範囲

(4) 町屋系配置の外観形態

1) 分類方法

戸建(伝統和風・町屋系配置)440棟の外観特性を把握するため、これらを2段階に分けて分類を行う。第1段階では、配置形態別に建造物の外観形態を詳細に分類する。配置形態に関しては4章(1)で規定した町屋系配置の9分類とし、外観形態はその構成要素となる「外形」「棟向」「階数」「2階前面形態」「1階前面形態」の順に分類を行い、それぞれに番号をふる[図6]。しかし、第1段階で分類したものはタイプ数が膨大となり、分析が複雑になってしまう。そこで第2段階ではタイプ分けされたもののうち、外観形態が比較的近いものを簡略化してまとめる[表2]。

2) 町屋系配置における外観形態【詳細型】

第1段階の分類の結果、町屋系の外観形態は27種類、準町屋式

aは9種類、準町屋式bは2種類、屋敷型町屋式aは8種類、屋敷型町屋式bは1種類、屋敷型町屋式cは3種類、屋敷型町屋式eは2種類、屋敷型町屋式fは1種類が見られた。以上合計すると53タイプに分類される[図6]。

3) 町屋系配置における外観形態【簡易型】

第2段階では上記の53タイプを、簡略化⁽¹⁸⁾し、34タイプにまとめた。このうち、一般的な外形であるI型のタイプは7棟以上、L型のタイプは3棟以上見られる場合、外観形態の代表タイプとし、a~nの計14タイプを抽出した[表3]。これらは全て同じ横屋であるが、外観形態は多様である。最も棟数の多いタイプはa,f[以下、アルファベットは表3参照]である。鉾山採掘場に最も近い上町ではaの占める割合が最も高い。また、鉾山町の大森⁽¹⁵⁾では相川と同様に平屋建の割合が比較的高い。この2点よりaと鉾山との関係性

図6 戸建(伝統和風・町屋系配置)における外観形態の分類(※【タイプ】内は詳細型のタイプ数)

表2 配置形態別にみる外観形態の代表タイプ(※網掛:代表タイプ)

配置形態	外観形態番号【図7】	タイプ名 (代表タイプに含まれないものは外形のみ記載)	棟数 (棟)	タイプ数 (簡易型)	代表 タイプ数
町屋式	① ② ③ ④	I(縦・同)/平屋型-町屋式	134	15	10
	⑤ ⑥	I(横)/平屋型	7		
	⑦ ⑧	I(縦・同)/一部2階型	8		
	⑨	I(縦・同)(低)/平屋型	32		
	⑩ ⑪	I(縦・同)/2階型(低)/下屋型	13		
	⑫ ⑬ ⑭ ⑮	I(縦・同)/2階型(中・高)/平屋型-町屋式	121		
	⑯ ⑰	I(縦・同)/2階型(中)/下屋型	11		
	⑱ ⑲	I(縦)/2階型(中・高)/平屋型	8		
	⑳ ㉑	I(縦)/張出2階(中・高)型	26		
	㉒	L型-①	3		
準町屋式a	㉓	I型	2	5	2
	㉔	I型	2		
	㉕	I型	2		
	㉖	I型	1		
	㉗	I型	1		
準町屋式b	㉘	L型-②	5	2	1
	㉙	I型	1		
屋敷型町屋式a	㉚ ㉛ ㉜	I型	4	6	0
	㉝	I型	1		
	㉞	I型	1		
	㉟	I型	2		
	㊱	I型	1		
屋敷型町屋式b	㊲	I型	1	1	0
屋敷型町屋式c	㊳	I型	1	2	0
屋敷型町屋式e	㊴ ㊵	I型	2	2	1
屋敷型町屋式f	㊶	L型-③	3	1	0
その他	㊷	L型	1	1	0
全体			440	34	14

表3 「町屋系配置」の外観形態による分類(※(%)内は町屋系配置に対する割合/(%)内はそれぞれの優勢地区における町屋系配置に対する割合)

配置形態	町屋式						
	a. <I(縦・同)/平屋>	b. <I(横)/平屋>	c. <I(縦・同)/一部2階>	d. <I(縦)/2階(低)/平屋>	e. <I(縦・同)/2階(低)/下屋>	f. <I(縦・同)/2階(中・高)/平屋>	g. <I(縦・同)/2階(中)/下屋>
写真							
棟数	134棟 (30%)	7棟 (2%)	8棟 (2%)	32棟 (7%)	13棟 (3%)	121棟 (28%)	11棟 (3%)
優勢地区	上町 [45%]	近郷 [6%]	—	—	—	下町(南) [38%]	下町(南・北) [3%]
優勢細部意匠	高窓・風除け	—	—	雨戸	—	窓付・ガラス雨戸	せがいでり
建築年代							
配置形態	町屋式		準町屋式			屋敷型町屋式	
	h. <I(横)/2階(中・高)/平屋>	i. <I(縦・同)/張出2階(中・高)>	j. <L-①>	k. <I(縦・同)/平屋>	l. <I(縦・同)/2階(中・高)/平屋>	m. <L-②>	n. <L-③>
写真							
棟数	8棟 (2%)	26棟 (6%)	3棟 (1%)	7棟 (2%)	9棟 (2%)	5棟 (1%)	4棟 (1%)
優勢地区	近郷・移転 [4%]	下町(南) 移転 [9%] [8%]	—	近郷 [4%]	下町(南) [4%]	近郷 [2%]	下町(南) [2%]
優勢細部意匠	—	窓付雨戸	—	—	—	—	—
建築年代							



図7 窓付雨戸(細部意匠)



図8 風除け(細部意匠)



図9 高窓(細部意匠)

凡例 江戸明治 大正昭和
0 25 50 75 100(%)

が示唆されるが、詳細は不明である。建築年代は比較的古いく、細部意匠は風除け[図 8]や高窓[図 9]を設けるものが多く見られる。なお、平屋建のbや2階高が低いd, eの建築年代も比較的古い傾向である。次に下町で最も多く確認できたfに関して見ていくと、細部意匠は窓付雨戸[図 7]、ガラス雨戸がこのタイプに比較的多く見られる。f, iは小木での一般的なタイプと同様のタイプであるが、相川ではiの占める割合が低い点で小木と異なる。また、外形がL型で屋敷的要素を含む準町屋式(m)や屋敷型町屋式(l)も確認された。

5. 長屋の外観特性

4章(1)での分類の結果、伝統和風(町屋系配置):7棟、近代和風(町屋系配置):28棟、近代和風(屋敷系配置):3棟の3タイプに分類した。伝統和風は上町に多く見られ、外観は戸建(伝統和風・町屋系配置)のa[表3]と類似している。一方、近代和風(町屋系配置)は移転地区・寺社域(下山之神町)で多く見られ、三菱が昭和初期に建てた鉾山長屋が大半を占める。近代和風(屋敷系配置)は上町のみ見られ、前庭を設けている。

6. 結論

- (1)町全体の残存状況は県内で最大級といえる。特に二町目～四町目、上京町～下京町、小六町～紙屋町など、先述の4地区では連続して高い歴建率を示し、町並み整備の重点地区候補となり得る。
- (2)町屋系配置を配置形態、外観形態より34タイプに分類し、そのうち代表的な14タイプを抽出した。これらは横屋で共通しており、一般的な町屋が大部分を占める。屋敷的要素を含むもの、外形がL型のもの等も見られ、その外観は多様といえる。これより、それぞれの建造物の特性を理解した上での景観整備が求められる。
- (3)上町は、小木等ではほとんど見られない平屋建のタイプ(a)が多く確認され、下町では島内他地域と類似している2階建のタイプ(f, i等)が多く見られた。
- (4)長屋は合計42棟確認され、島内他地区と比べると比較的占める割合が高い。中でも近代和風の鉾山長屋は相川の特徴といえる。

謝辞

本研究は平成20年度新潟県大学「知の財産」活用事業による受託研究の一環で行ったものです。地元住民・関係行政の皆様には多大なるご協力を頂きました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

【補注】

- (1)今後は町並みの歴史の変遷や、建造物の履歴等の詳細調査が必要である。
- (2)本研究では第2次世界大戦(1945年)以前に建てられた建造物と定義する。
- (3)原則、目視と佐渡市提供データ双方で戦前と確認出来たものを歴史的建造物として推定し、508棟(65%)がこれに該当した。それ以外については、目視、ヒアリングの情報を踏まえて確認したところ、100棟(13%)に関しては歴史的建造物とほぼ確定できるが、残りの168棟(22%)に関しては、目視のみの推定等であり、今後詳細な調査が望まれる。また、一般建造物1,228棟に戦前の建造物が含まれる可能性はあるが、棟数はごくわずかと考えられる。なお本研究は①基礎調査である事、②伝統的な様式の外観分析を行っていることから、若干の誤差は結論に影響を与えない。
- (4)調査範囲内での全建造物に対する歴史的建造物の割合とする。
- (5)現在、下越・上越地方における街道沿いの町場(既往研究5)～9)、佐渡地方の小木(既往研究10)までを終えている。
- (6)本研究は過去の研究では利用していない行政データを用いているため、外観からは推定困難な歴史的建造物を推定する事ができた。また、相川は周辺部(農村)も調査範囲としたのに対し、村上等の城下町は武家町・寺

- 町は除外している等、調査範囲の選び方が異なっている。このため実際は歴建率のみで単純に比較ができるわけではない。
- (7)小規模の町丁では歴建率に大きな誤差が生じ得るため、制限を設けた。
 - (8)同用途の他の建造物と見比べて、外観から建築当時の用途を類推。
 - (9)本研究では伝統和風を近世以前の和風またはそれを継承している近代の和風とし、近代和風を近代に建てられた和風建築のうち伝統和風を除いたもの(数寄屋造り等)とする。
 - (10)建造物が敷地境界線と接するものを「接道」、一部接するものを「半接道」、堀・庭等により若干後退しているものを「準接道」(前面道路から玄関に直接アプローチできる場合)、相当後退しているものを「非接道」(庭等を経て玄関にアプローチできる場合)とする。
 - (11)建造物が両隣の敷地境界線とほぼ接するものを「接隣」、庭等により片側のみと接する、もしくはほぼ接するものを「片接隣」、庭等により両隣の敷地境界と接さないものを「非接隣」とする。
 - (12)既往研究8),9)の配置形態を基本とし、接道条件に「半接道」を追加し、修正した。配置形態は、町屋式と屋敷式が基本となるが、その中間的な配置のものが多く確認されたため、それを整理し分類したものである。基本、町屋系配置と屋敷系配置は玄関位置によって決まり、町屋式、屋敷式に対して中間的要素であるという事を「町屋型」「屋敷型」という言葉をつけることにより表した。
 - (13)本研究では主に戸建を見るため、図5では長屋を便宜上省略している。長屋に関しては5章で詳述する。
 - (14)本研究の目的上、通りから見える建造物のみを対象として調査を行っている。そのため、付属屋に関しては実際の棟数より明らかに少ない。
 - (15)前面道路に対し大棟が平行であるものを横屋、垂直であるものを堅屋とする。入口が前面道路側にある場合、妻入＝堅屋、平入＝横屋であるが、玄関が側面側にある場合には、これが成り立たない。本研究では町並み景観の特徴を捉える必要があるため、玄関の位置に関わらず、前面道路と大棟の向き関係性を見るために、この定義を用いる。
 - (16)()内は2階高を指す。1階高と比べて低いものは(低)、同程度のは(中)、高いものは(高)とする。一般的には「つし二階建」「本二階建」といった分類があるが、県内の町屋は2階高が著しく高い事があるため、3段階で分類を行う事とする。
 - (17)玄関脇の風を遮るための板を「風除け」とする。正式な名称は不明である。
 - (18)例えば①②及び②③での軒高の違い、更に①②及び②③における外形の違いは、外観に大きな違いをもたらさないと判断し、これら4タイプをまとめて「(縦・同)／平屋型」とする。

【参考文献・既往研究】

- 1)相川町教育委員会：金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書, 1993. 3
- 2)佐渡市教育委員会：佐渡金銀山 相川町鉾山間歩調査・寺社調査, 2003. 3
- 3)相川町企画振興課：相川町 HOPE 計画, 1995. 3
- 4)TEM 研究所：相川市街地再開発基本設計, 2006. 3
- 5)佐藤憲明, 岡崎篤行：新潟県岩船郡における歴史的建造物群の残存状況と外観特性—下越地方の街道沿いを対象として—(その1), 日本建築学会計画系論文集, No. 610, pp. 141-146, 2006. 12
- 6)五十嵐浩：新潟県における歴史的建造物群の残存状況とその建築的特性—北蒲原郡地域の街道沿い集落を対象として—, 新潟大学大学院自然科学研究科環境システム科学専攻建築学教育研究群修士論文, 2005. 2
- 7)加藤健二, 岡崎篤行：新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と建築特性—中蒲原郡・東蒲原郡地域を対象として—, 日本建築学会北陸支部研究報告集, No49, pp. 449-452, 2006. 7
- 8)渡辺篤史, 岡崎篤行：新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と建築特性—新潟市及び西蒲原郡を対象として—, 日本建築学会北陸支部研究報告集, No50, pp. 359-362, 2007. 7
- 9)竹市昌平, 岡崎篤行：新潟県上越地方における歴史的建造物群の残存状況と外観特性—西頸城郡・中頸城郡・東頸城郡地域の街道沿い集落を対象として—, 日本建築学会北陸支部研究報告集, No52, pp. 415-418, 2009. 7
- 10)會田千春, 鈴木絃太, 岡崎篤行：近世港町小木における歴史的建造物の残存状況および外観特性, 日本建築学会北陸支部研究報告集, No51, pp. 333-334, 2008. 7
- 11)大場修：近世近代 町家建築史論, 中央公論美術出版, 2004. 12
- 12)文政九年相川町町墨引, 相川町所有, 文政九年(1826)
- 13)国土変遷アーカイブ空中写真閲覧, <http://archive.gsi.go.jp/airphoto/>
- 14)天保年間相川十二月, 佐渡高等学校所蔵(写本)
- 15)島根県大田市教育委員会：石見銀山御料 大森の町並調査報告書, 1975. 3
- 16)大庭裕雅, 岡崎篤行：鉾山町相川における歴史的建造物の残存状況および外観特性—町屋系配置を中心として—, 日本建築学会学術講演梗概集 F1, pp. 999-1000, 2009. 7

[2009年6月19日原稿受理 2010年1月8日採用決定]